

能登里山里海未来創造センター

Noto Resilience and Revitalization Center

金沢大学の英知を集結することにより、「地震・災害に強く安全・安心で、だれもが住みよい、文化薫る地域・まちづくりとひとづくり」に寄与し、令和6年能登半島地震の被災地の復興に資することを目的とします。

センター長 理事・副学長 谷内江 昭宏

センターの役割と体制

Planning



里山里海創造WG

中長期的視点による創造的復興に向けた構想の立案、学内外の調整を行う。

座長 センター長 谷内江 昭宏

Research and Report



令和6年能登半島地震金沢大学合同調査チーム「KUD」

(Kanazawa University Disaster investigation team)

研究分野を超えた、文理医融合の合同調査チーム。能登半島全域における被災地の現状把握や被災者支援、復興対策に役立つ公共性・公益性の高い情報発信を行う。

統括 理事・副学長 中村 慎一

Mental Care



こころのケア専門チーム「KEYPAT」

(Kanazawa Educational Yell Psychological Assistance Team)

令和6年能登半島地震によって、心の不調を抱えることになった方々を心理面から支援する全学的チーム。個別のサポートとともに集団のサポートとコンサルテーションを行う。

統括 保健管理センター長 吉川 弘明

Medical Support



医療支援

被災者の健康維持増進に必要な医療支援を中長期的な視点に立って行う。能登半島地震発災からの医療支援全般にかかわる本学の取組を振り返り、課題と今後の震災に向けた対策を立案する。

統括 附属病院長 吉崎 智一

Education And Training



教育・ひとづくり

急性期の被災中学生・高校生に学習環境（場所及び物的・人的支援）を提供し、学びの継続を支える。並行して、帰還期・復興期を見据えた地域再建のための価値再生と価値創造を、教育と人づくりの視点で推進する。

統括 理事・副学長 森本 章治

Volunteer



被災地支援（ボランティア）

金沢大学学生・教職員ボランティアの被災地への継続的な派遣と現地での支援活動の実施により、地域との連携を深め、地元大学として長期的な復興支援と地域再生を行う。

統括 理事・副学長 森本 章治

復興のプロセスに応じてチーム等の再編も想定しています。

融合学域・研究域、人間社会学域・研究域、理工学域・研究域、医薬保健学域・研究域、国際基幹教育院、附属病院、学内各研究所・センター・機構等

学内の様々な部局・組織と連携して、オール金沢大学で被災地に寄り添い、震災からの復旧・復興及び支援に全力を尽くします。